環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE WCRP 合同分科会

GLP 小委員会（第 24 期・第 3 回）議事録

日時　2018 年 8 月 29 日　13:00-15:00

場所　日本学術会議　６（C）

出席者　春山、氷見山、大黒、石井、近藤、柴田、王、奥田、スカイプ参加（渡辺、木本、石原）

欠席者　大崎、占部、季、奈佐原

議事録案

大型研究提案について事前配布書類を参照し、24 期では大型研究計画を GLP 単独で作成するか、全体の FE のもとに置くかについて検討することとした。これに関し、4 件のプレゼンが行われた。

石井委員：FE（地球研）の現状紹介、GLP 中心の提案と FE 提案での調整の可能性を指摘し FE 全体での提案が求められる可能性を示唆。

柴田委員：GLP 活動を紹介（GLP の歴史、活動内容、ノーダルオフィス、国内 GLP の研究内容、SWOT 分析　→　Synthesis Center の設立提案）した.

渡辺委員：北大ノーダルオフィス主催の若手育成プログラムに国内参加者が少ないことを指摘.

王委員：「土地利用変化が持続可能な地域づくりに与える影響の解明」に関する研究提案の紹介.

なお、大型研究提案の方向性の議論は次のようであった.

１．　研究の方向性が違うのであれば、地球研 FE 提案とは別に進めるのが良い.

２．　GLP と他の GRP との共同研究を考えるのはどうか.

３．　土地利用研究者育成が必要．学部教育が重要である.

４．　SDGs と対応させるために時間スケールが必要．日本での問題解決のみならず国際的な問題解決への展開も必要.

５．GLP からの提案が大型研究としての適性かどうかの議論が必要.

６．土地利用に関して社会との共同研究も多いが新規研究の効果を既往事例と合わせて確認する必要がある.

７．Synthesis Center は大型提案の軸となる．既存データ、とくに衛星データは約 50 年使えるので土地利用・土地被覆研究を定量的データベース化可能。

８．大型研究が前提の議論でよいのか、コミュイティとしての議論と合意が必要。

９．土地・土地被覆の地図化の技術とデータの実績があるので、世界に貢献できるはず。ミクロとマクロをつなぐ機能に焦点を当てて地図化更新する仕組みを作るのであれば大型研究になるのではないか。

10.　FE 全体の中身を GLP 中心に据えることは、他の GRP との関係からも少々難しい。

11．タイミングとして、グループ分けを議論する段階ではないのではないか。
これらの議論を基にして、GLPは独自に大型研究への提案することにして10月ごろにGLP提案の素案を持ち寄ることにした。